

議会だより

第97号

平成16年8月

さ つ ま

発行 / 薩摩町議会

編集 / 薩摩町議会だより編集委員会

電話 (0996) 57 - 1111 内線237



消防記念日での操法練習 (8月1日)

CONTENTS

6月
定例会

- | | |
|---------------------------|----------|
| ● 廃置分合関係 5 議案可決 (特別委員長報告) | 2 ~ 3 頁 |
| ● 補正予算・報告等 | 4 ~ 6 頁 |
| ここが知りたい 一般質問 | 7 頁 |
| ・町内失業者の状況と対策は | (米 丸 議員) |
| ● 委員会報告, 意見書 | 8 ~ 10 頁 |
| ● ちょっと一言 (広域合併シリーズ⑤) | 11 頁 |
| ● 議会の動き | 12 頁 |

第2回 定例会

平成十六年第二回定例会が六月十八日に開会し、六月二十八日までの十一日間の会期で合併関係五議案、一般会計他五特別会計の補正予算、過疎地域自立促進計画変更が上程され、すべて原案のとおり可決されました。常任委員会では、陳情の審査、今後の活動について協議しました。

また、一般質問は一名が行ない、直面する問題等について町長の考えを質しました。

薩摩郡さつま町を設置することに伴い薩摩郡さつま町の議会の議員定数を二十六人と定めるもの。

薩摩郡宮之城町、同郡鶴田町及び同郡薩摩町の廃置分合に伴う経過措置に関する協議について

薩摩郡さつま町の議会議員の定数及び農業委員会委員の任期について、市町村の合併の特例に関する法律により、合併直後の選挙に限り、議員定数を二十八人とし、旧町ごとの選挙区を設け、各選挙区の定数を宮之城町の区域十六人、鶴田町の区域六人、薩摩町の区域を六人と定めるもの。また、農業委員会を一つにし、現在の農業委員の任期を平成十七年七月三十一日までとするもの。

廃置分合(合併) 関係五議案可決

合併に関する次の関係五議案が上程され、議会では広域合併調査特別委員会で審議をし、本会議において全会一致で可決されました。

廃置分合に関する議案

薩摩郡宮之城町、同郡鶴田町及び同郡薩摩町の廃置分合について

薩摩郡さつま町を設置することについて、鹿児島県知事に申請するためのもの。

薩摩郡宮之城町、同郡鶴田町及び同郡薩摩町の廃置分合に伴う財産処分に関する協議について

薩摩郡さつま町を設置することに伴う財産処分について、宮之城町及び鶴田町と協議のうえ定めるもので、三町の財産はすべてさつま町に帰属させるもの。

薩摩郡宮之城町、同郡鶴田町及び同郡薩摩町の廃置分合に伴い設置される薩摩郡さつま町議会の議員の定数に関する協議について

薩摩郡宮之城町、同郡鶴田町及び同郡薩摩町の廃置分合に伴う地域審議会の設置に関する協議について

合併の日から平成二十七年三月三十一日までの間、旧町の区域ごとに宮之城地区地域審議会、鶴田地区地域審議会、薩摩地区地域審議会を設置するもの。



全会一致で可決

特別委員長報告

付託された五件の議案については、宮之城町、鶴田町及び薩摩町の合併に伴うもので、委員会としても合併協議会に提案された事項については、これまでに慎重に調査を行い意見、要望等を協議会に反映させてまいりました。

二十二日の委員会では町長、総務課長、係長の出席を求め、五議案一括して質疑を行いました。特に委員から新庁舎候補地の問題について多くの質疑、意見が出されました。出された主なものとして、調印式までに場所の選定を終わるべきではなかったか、新庁舎建設候補地研究会の中間まとめも時間がかかりすぎたのではないか、法定合併協議会である程度候補地を決定した上で合併議案は議決すべきではないか等の意見が出され、町長等から現在までの経緯、今後の考え方等説明を受けましたが、採決まで至らず二十五日に再度委員会を開催しました。

二十五日の委員会では、引

き続き町長、総務課長の出席を求め質疑をおこないました。新庁舎建設候補地研究会で出された案が法定協議会にどう反映されるのか等の意見が多く出され、今後この新庁舎建設候補地研究会において早急に候補予定地等を検討され、法定協議会及び各町議会広域合併調査特別委員会に速やかに報告すべきとの意見が出されました。

まとめとして、三町合併に向けて協定項目の調整が全て終了し、今回合併関連の議案が提案されたわけであり、庁舎位置問題については町民の関心も高く、委員会としても慎重に審査を重ねました。審査過程で継続審査の見地もありましたが、大局的な見地で判断すべきということから採決した結果、全会一致で五議案については可決すべきと決定しました。



調印に臨む山口町長

激論 新庁舎位置

Q 新庁舎建設候補地研究会の報告が遅れた経緯は。

A 議会運営委員会からの要請があり、研究会の会長、法定協の会長と打合せ、研究会を開き、ワーキンググループの報告を基に中間報告書を、遅れましたが本日配布しました。

Q 新庁舎位置はさつま町の構想の中核である。公共利用、交通事情の良い場所と方向性は決まっている。

A 研究会は、自分たちで判断しないスタンスではないのか。

A ワーキンググループが半年弱掛けて五地区を上げてあるが、まだそれぞれに問題があり、調査も必要。このほか六番目の地点が出てくるかもしれない。一般町民や議会等の組織を作って検討が必要。

Q 三町民のアンケートでも新庁舎の位置、建設について最も多く答えを求められている。新町になってから

では、薩摩町民の考える位置に出来るものか。

A 説明会では「合併までに・・・」と言う要望は多かった。合併までにこの辺という方向性が立てば良いと思うが、鶴田、宮之城の考えもあるので調整が必要。早く出すように要望はして行く。

Q この廃置分合五議案を可決することは、合併に異論はないこととなり、今後庁舎問題に意見が出来なくなるのでは。

A 法定協は合併までは存続するので、研究会の報告があれば特別委員会での意見はできると考える。

Q 中間報告に対する法定協や町民意見を聞くために、また一定の方向が見えるまでに継続審査は可能なのか。

A 知事のスケジュールに合わせ七月一日に県に廃置分合申請の予定を組んである。また、議決がなければ電算化の戸籍事務委託の法務局の認可が受けられず、遅れれば合併時に電算が起動できず支障がある。

補正予算

一般会計 1億88,484千円の増額

補正予算の主なもの

一般 会 計	総務費	職員の異動による人件費の調整 情報サービスシステム等整備負担金	7,780千円 1,150千円
	民生費	福祉バス購入費 介護保険特別会計拠出金	9,200千円 5,065千円
	衛生費	簡易水道会計拠出金 老人健診委託料	11,443千円 1,380千円
	農林水産業費	町家畜検査場移転関係工事費等 農用地利用集積促進事業補助金 作業路補修工事(山神)	32,764千円 1,500千円 4,000千円
	土木費	道路維持工事等 道路改良工事等 職員の異動による人件費の調整 町営住宅施設補修工事費 (株)パーク観音滝運営補助	18,810千円 11,200千円 5,406千円 7,240千円 8,396千円
	消防費	求名1部詰所新築工事等 地域情報伝達無線システム補助金	12,700千円 2,659千円
	教育費	埋蔵文化財調査費(高規格道路関係) 学校給食調理場備品購入費	10,021千円 4,635千円
	災害復旧費	施設補修工事費	3,000千円
特 別 会 計	国民健康保険	一般被保険者療養給付費	2,919千円
	簡易水道	職員の異動による人件費の調整	10,695千円
	老人保健医療	15年度分の精算による調整	28,464千円
	町立診療所	15年度分の精算による調整	10,932千円
	介護保険	調査員賃金 川薩地区介護保険組合負担金 返還金	1,620千円 3,238千円 1,308千円

会 計 名		補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計		188,484千円	4,424,484千円
特 別 会 計	国民健康保険	3,819千円	502,190千円
	簡 易 水 道	18,308千円	298,444千円
	老人保健医療	28,464千円	1,017,132千円
	町立診療所	10,932千円	155,980千円
	介 護 保 険	6,853千円	508,514千円

審議の中から



- Q** 地域情報伝達無線システム
- A** 家畜検査場の移転場所は、また、いつごろか。
- Q** 現在の検査場の近くで、平成十六年度内に完成予定であります。
- A** 林道維持費で、四百万円程道路改良工事が計画されているが、何処か。
- Q** 永野の山の作業道路で、急勾配を中心に生コン舗装等を計画している。
- A** 道路維持工事費と道路新設改良で約二千万円計画されているが、箇所名を出していただきたい。
- Q** 道路維持工事は今回、北平線・山伏塚線・下手三号小永田線・下別府線・永野金山線・仁八白猿線・谷口線の八路線を追加します。道路新設改良については、藤川境田線法面の完全仕上げを計画しています。



新しい家畜検査場建設予定地

△補助の内容は、現在各自治公民館で、有線放送や回覧等による情報伝達が行われているが、金山地区及び平田地区においては高齢化が非常に進み、現在の方法では、情報伝達や維持管理が大変厳しい状況にあることから、無線システムの導入を考えています。

Q 学校管理費の施設改修工事の内容は、永野小学校正門の門扉の改修で、台座やレールまた滑車の補修、本体の塗装を計画している。





埋蔵文化財発掘調査予定地（尾付野山三叉路付近）

- Q** 求名小学校へ白木昭男さんから五十万円寄付があり、備品購入費で予算を組んであると思うが、何を購入するのか。
- A** 求名小学校の校旗を製作する予定です。
- Q** 埋蔵文化財の調査について、事業費が大きいようであるが、どのような調査区になっているのか。
- A** 尾付野山遺跡になり、観音公園上の一級町道の三叉路付近です。
- Q** 住宅管理費の工事請負費七百二十四万円は、何処か。
- A** 向川団地の外壁塗装工事です。
- Q** 学校給食費の備品購入費四百六十三万五千円は、何を購入するのか。
- A** 給食センターの軽トラックと調理器具のコンビオーブンの購入を計画しています。

(株)パーク観音滝 第7期決算報告

株式会社パーク観音滝の第7期(平成15年度)決算が下記のとおり報告されました。

(円)

売上高	1億23,207,827
売上原価	39,413,678
売上利益	83,794,149
販売費等	1億02,735,245
営業損失	18,941,096
営業外収益	18,444,521
当期損失	626,007
前期繰越損失	17,769,806
当期末処理損失	18,395,813



エアコンが設置された観音滝の回グハウス



・「一般河川水質調査事業・十三定点」を「一般河川・最終処分場水質調査事業」に変更。

・法面崩壊防止整備 三箇所 (変更分)

・別野小牧線改良・舗装、幅五メートル・延長一五〇メートル。

・武白猿線橋梁、幅三・八メートル・延長五・六メートル。

・アザノ線改良舗装、幅四メートル・延長一六〇メートル。

・横手線改良・舗装、幅四メートル・延長二二〇メートル。

(追加分)

過疎自立促進計画の変更



米丸 文武 議員

町内失業者の状況と雇用対策は

新聞等によると、昨年後半から電機・自動車産業の業績回復から、大都市を中心に雇用が改善されつつあり、高校大卒の就職内定率が二・三ポイントを上回った。

一方、一般求職者に対して六年ぶりに雇用率が〇・四％増加、完全失業率も二ヶ月連続で四・七％で五・〇％の大会を下回り、県によると来春採用予定者は新規卒者で二六・三％増の見込みのようである。官之城職業安定所管内の就職状況は、平成十六年四月は求職者八八八人に対して、求人数三六二人で、就職は七九件の九・三％の就職率で残り九〇・七％の七六九人が就職できない状況である。大都市を中心に経済回復と同時に雇用改善が進むが、地方への波及効果は時間がかかるのが実状であり、本町の状況は厳しいところにある。町は町民の生活実態を把握すべき立場から、町民の失業者状況をどうとらえているのか伺いたい。

雇用対策について、高齢化率四〇％を超え、地域を支える生産年齢者が失業したり、高齢者の仲間入りが進みつつ

あります。この地域がこれからも寂れることなく繁栄していくためには、生産年齢者の働く場を確保し、若い人に町内に住んで地域を支えてもらうことが大変重要である。いま職場を求めている人々に働く場を提供することや新卒者が地元で就職できる環境を整えることも行政の大きな役割と考えるが、町のこれまでの雇用対策とこれからの対策をどのように考えているのか伺いたい。

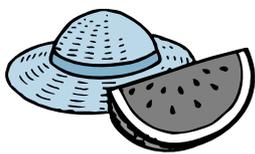
町内企業連絡会でもお願いしている

町長

失業率に改善の気配が表れてきたとの報道がされておりますが、これは全国的な傾向であり、地域により温度差があると思われる。失業率が低下したとはいえ、まだ高水準にあり、特に若者の失業解消をすべきと考えます。全国的に高校・大学卒業生の採用が低迷しておりますが、就職後の早期退職率が高く、企業の実態を熟知してから就職することも必要であります。



16年6月にオープンした、(有)ジャパン・アグリ・ビジネス(中津川・武)



また、商業や農業家庭の子弟におかれましては、町単独支援制度を利用して頂きたいと思っております。中途失業者におかれましては、川内能力開発協会等で技術を取得され、就職に有利となる努力をして頂きたいものです。

町民の失業実態につきましましては、プライバシーの点から調査は致しておりませんが、国勢調査等で把握したいと思っております。

生産年齢者の定住が必要なおことから、企業誘致にも努力しておりますが、思うように進んでおりません。国や県、本町出身者の方々へ情報の提供をお願い致しております。工業団地への企業誘致も下流の観音滝公園に配慮しながら、条件に見合う企業を探し、町民の就職に役立てるよう取り組んで参ります。

雇用につきましても、緊急雇用対策事業等を活用しながら、高齢者の仕事、役場のパートなどを実施してきました。また、町内企業連絡会におきましても、町民採用のお願いを致しております。

所管事務調査報告

【調査事項】

まちづくり協会の運営状況について

【調査場所】

福島県三春町

【調査期日】

平成十六年五月十日

【調査の結果】

本町も少子高齢化で地域の担い手の高齢化が進み、今後活力ある地域の維持活動に支障が出てきつつあり、又、町村合併をまじかに控え合併した後、中心部から離れた地域は益々さびれる可能性があることから、自ら地域を守り活性化する必要を感じ、このたび早くから町づくりに取り組まれている福島県

三春町のまちづくり協会を調査しました。

三春町は福島県のほぼ中央、阿武隈山系の西裾に位置し、標高230mから510mの緩やかな山並みが続く丘陵地で、昭和三〇年に一町六村が合併した人口19,719人、面積72.76km²の町である。

三春町では町民参加のまちづくりを基本理念として活力ある町づくりを進めており、昭和51年に町全体の組織として三春町町づくり協議会を設置し、昭和57年に7つの旧町単位にまちづくり協会が設立され、それぞれ独自の個性的な活動が展開されている。

地区単位の計画が町全体の計画の基礎になっており、協会間の連携・交流も密に行われている。



調査中の委員

画の基礎に

なっており、協会間の連携・交流も密に行われている。

協会は区長、議員、農業委員、商工会、PTA、老人クラブ、民生委員、消防団等の代表者が委員となっている。

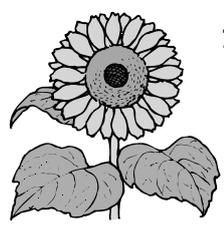
研修した御木沢地区町づくり協会では、土地利用部会、景観部会、保健福祉部会、地域学習部会、スポーツ部会がある。協会の事業として

運動会、敬老会、美化活動、球技大会等が実施され、各部会では宅地造成、地区の未来図のコンペ、住環境の保全と意識の高揚、公園の環境整備、介護保険と在宅介護の研修、健康教育、新聞発行、子供地域活動のボランティア活動など年間50回以上実施され、その事業費は町の補助金約110万円、社会福祉協議会から65万円、各区からの負担金8万8千円、他に事業に対する区からの負担金120万円の合計350万円程である。

地区の特徴として
・住民のボランティア意識が高い。
・校を育てる事業は20年以上続けている。
・部会の出席率は83%程
・部会は夜7時から開催し、ジュース一本程度出す。
・酒を伴う事業は、その分会費を徴収する。
・事業参加者に日当は不支給
(自分達のことだから)
・子供を参加させることで、保護者の参加を促している。
・役員は若い人で30歳位、農事組合関係は40歳位
・地区運動会(小学生130人)は地区対抗で実施

・草刈等のクリーン作戦の出席率は70%程度。
以上のような状況で、活動内容は本町と同様の点多い
が、特筆すべき点として、
・年間50回以上の行事を協会主体で実施している。
・各種事業に対して、ボランティア意識が高く、自分達のことだから自分達で負担するのが当然という考え方が定着している。
・参加意識が高い。

委員会のまとめとして、合併後は地域づくりが重要になってくることから、本町においても永野校区では自治公民館長の留任や各種団体が自主的に活動している例もあり、この取組みは他の校区でも見習うべきで、従来の行政主導から住民主導に切り替えていく必要がある。又、各種研修会で得た情報を他の住民の方に提供し、検討する場を設ける必要があること等の意見が出されました。



陳情審査報告

採択と決定

【陳情第八号】

町道別野小牧線
道路改修工事に
関する陳情

【陳情第九号】

国産材政策に
関する陳情

陳情第8号については建設課長の動向を求め現地調査を実施しました。現地では館長さんをはじめ地権者、受益者代表の方より陳情内容の説明を受けた後、約340mを踏査しました。

幅員は部分的には狭いが、ある程度の幅員は確保されてきました。しかし、法面が崩れやすく側溝も一部しかなく雨水は道路を流れる状態でした。地区の幹線道路として交通の多い反面、離合が容易でないことから願意は妥当と認められ、全会一致で採択となりました。



別野小牧線を調査中の委員

陳情第9号については、提出された書類を項目ごとに審査しましたが、森林・林業の現状は外材輸入の増加と住宅着工数の減少等による国産材需要の減退・木材価格の下落・木材生産コストの増大等による採算性の悪化などから森林管理は困難を極めて極めています。このようなことから森林の維持管理・持続的な森林経営を行なうためには、新たな政策が必要とのことから全会一致で採択することに決定しました。

【調査事項】

集落営農の取組み
について

【調査場所】

福島県矢祭町

【調査期日】

平成十六年五月十一日

【調査の結果】

本町は過疎高齢化に対応し、地域資源・環境等を活かしながら話し合い活動による集落・地域ぐるみの農業を目指し、集落営農体制の育成を重点課題に掲げ、第四次総合振興計画にも明記されております。私共も早急に対処すべき課題との事から福島県矢祭町の久慈川中部生産組合を調査しました。

矢祭町は福島県の最南端に位置し、久慈川流域に広がる平坦地域と阿武隈山系に属する山間地域に大分され、気温は比較的温暖で、積雪は少なく農作物育成には条件の良い地帯でありました。これまでの矢祭町の農業は、経営面積が平均80aと零細経営であり、

米・こんにゃくを中心に野菜・畜産等を組み入れた複合経営が主体であったが、第二種兼業農家の増加と共に鉢物・イチゴ・原木しいたけ栽培等に経営転換する農家が現れている。

組合のある石井地区は、農家戸数286戸のうち専業農家は29戸と少なく、農地面積は、水田が164ヘクタール、畑が108ヘクタールとなっている。



調査中の委員

水田の大部分を県営圃場整備事業により水田整備を実施していく中で、平成5年度に県営担い手育成基盤整備事業へ移行したのをきっかけに、平成10年度に地区内の4分の1以上の水田を担い手へ集積するため久慈川中部生産組合が設立されている。組合員は7名で、県営担い手育成基盤整備事業で整備された127ヘクタールのうち約40ヘクタール(集団所

までの作業をほとんど受託され、集団転作4.5ヘクタール(そば・麦の二毛作)を全面受託し、最近では地区外の集団転作も全面受託されていた。組合事務局をJAの支店内に置き、作業の受委託から作

業料金の徴収・精算まで福島県農業公社が行い、組合員は水稲は耕起から収穫・乾燥までの作業をほとんど受託され、集団転作4・5ヘクタール（そば・麦の二毛作）を全面受託し、最近では地区外の集団転作も全面受託されていた。

組合事務局をJAの支店内に置き、作業の受委託から作業料金の徴収・精算まで福島県農業公社が行い、組合員は作業に専念できる体制がとられていました。

これらの取組みにより、
1. 作業の効率が進み作業時間が大幅に縮減でき、新たな作物へ労働を向ける事ができた。

2. 個人ごとの農業用機械購入が不要となり、設備投資の軽減が図られた。

3. 麦・そばはJAに出荷しているが、そばは農産物直売所内の食堂で地元産の手打そばとして販売しており、地産地消が実現している。

4. 組合員の中から3名の農業後継者も育てっており、個々の経営に参画すると共に組合のオペレーターとしても活躍している。

これらの他にも多くの成果を上げられているようでした。

本町も農業は基幹産業であり、農家が元気になることで地域が発展していくと思えます。そのためには集落営農的な組織作りを早急に展開し、担い手不足を補い、農地の荒廃防止・土地の集積を図って行くことが重要であるとの委員各位の意見でありました。

意見書の提出

次の意見書を提出しました。

(内容は抜粋)

国産材政策に関する意見書

提案者 久保 道夫
賛成者 岩元 涼一

現在の森林・林業の現状を考える時に採算性の悪化等から十分に活用されていない状況である。よって政府におかれては、実情を十分に踏まえ、本県森林・林業の将来が展望できる政策の確立に向け次の事項に配慮されたい。

- 一、森林整備予算の拡充を図ること。
 - 二、保安林整備事業による森林整備を促進すること。
 - 三、外材の輸入抑制措置を講ずること。
 - 四、地域材の需要拡大対策を積極的に推進すること。
- 提出先 農林水産大臣、財務大臣、経済産業大臣 他



紫尾木材流通センターの競り市

中山間地域等直接支払制度の継続と 制度の充実を求める意見書

提案者 新屋敷 浩
賛成者 福山 道徳

現在実施されている本制度は本町にとって大変有意義な制度であるが、財務省は制度の廃止や大幅縮小を検討している。中山間地域が持つ水源かん養や洪水防止機能等を考えると財政緊縮策だけでは国土が荒廃し莫大な損失を子孫に残すことになる。

ついでには、制度の見直しをするにあたり、これ以上農村部を疲弊させないためにも本制度を継続し、畑の単価及び傾斜基準の見直し等による制度の充実・強化を図られたい。

提出先 内閣総理大臣、農林水産大臣、財務大臣



本制度を利用した研修視察（境田地区集落協定）
研修地：大分県豊後高田市蒔地区営農組合



合併の実施協力について

永野金山 渡辺 武俊さん

深緑の候、日増しに夏を感じます。町からのダイジェスト版や、薩摩東部地区合併協議会が示した新町建設計画を目標に、また、地域のイメージアップと地域活力の向上を目指した町づくりプロジェクトの提言に向かって、町長さんを始め町議の皆様

様、町職員的一致団結の信条の原点に住民の一員として深く感謝の念で一杯でございます。鹿兒島を代表する名称となる「さつま町」発展のため町民一致団結一丸となり慢心する心算です。「新さつま町に光を」、「老いも若きもタイアップ」を第一条件として、「鹿兒島県第一位の町」をスローガンとして、町民とし目標に向かって最大の努力をしたいと考えます。皆さんお互い

に頑張りましょう。
(協力で幸運見える世の流れ)



安心して暮らせるさつま町を目指して

求名下中福良 桑原 露子さん

本格的な梅雨空を見ないまま梅雨明け宣言、そして猛暑、暑中御見舞い申し上げます。
三村合併から五十年の節目に平成の大合併と、何となく目まぐるしいこの頃です。現役の時、ホームヘルパーとしてお年寄りとの関わりが長かったせいでしょうか、合併に際しても老後のことが頭を

よぎります。私も最後の昭和一桁生まれ、何時の日か車を運転できなくなつた時のこと等、ふと不安になります。これまでの薩摩町を築いて来られたお年寄りの皆さんが、「生きていて良かった」と思える様な安心して暮らせる「さつま町」を目指してほしいと願っています。そのためには、地域を支える支所の在り方が最も重要ではないでしょうか。中央の発展だけでなく、地方に目の届く行政の在り方こそ大事だと思います。梅の町、竹の町、ダム町とそれぞれのブランドを融合させ、教育、福祉、観光等々合併の効果を充分に発揮できますよう期待します。

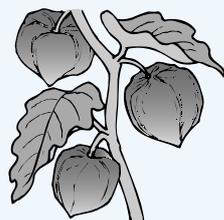


有意義な町づくりのために

中津川武 今東 清光さん

素晴らしい町がつけられるために、私たち「金吾様踊り活性化委員会」では、合併において特色ある地域づくりがたいせつであると考え、有志が集まり活動しています。近郷近在より多くの見物人を呼ぼうと、それぞれの能力を出し合い、如何に「さつま町」の中津川を知ってもらう為に、五年計画

を立て毎年一つ一つ地域の良さと伝統を掘り起こしています。
歴史を覗いて見ると我が薩摩町は、古来より分村・合併を繰り返して来たことを聞きます。歴史に残る活躍を望みます。歴史に残る活躍を望みます。有意義な町づくりのために、共に頑張りしたいと思います。



議会の動き

五月

- 二二日 さつま農協総代会
- 二四日 防犯連理事会・総会
- 奥さつま・水と緑の郷づくり協議会
- 二六日 郡議長会総会
- 二七日 広域営農団地農道等整備事業推進協議会
- 学校保健会総会
- 二八日 北薩空港道路期成会
- 三二日 南九州西回り自動車道期成会

六月

- 一日 第十三回合併協議会
- 町観光協会総会
- 二日 鹿児島大口径線期成会
- 三日～四日 常任委員会研修会
- 八日 北薩地区身体障害者スポーツ大会
- 九日 川薩地域農業改良普及事業協議会
- 一一日 議会運営委員会
- さつま地域農業管理センター総会

- 一五日 九州電力との懇談会
- 町制五十周年記念事業実行委員会
- 一八日 第二回定例会召集
- 二二日 合併協定調印式

- 二五日 ジャパン・アグリ・ビジネス施設落成式
- 二八日 本会議（最終日）
- 二九日～三〇日 正副議長研修会



薩摩中央高等学校除幕式

七月

- 一日 知事へ合併申請
- 六日 川内川流域温泉郷観光協議会
- 八日 町土地開発公社審議会
- 一四日 薩摩中央高校設置祝賀会
- 一五日 高校募集定員及び高校づくり説明会
- 一五日 熊本森林管理局要望

- 二二日 本会議
- 合併特別委員会
- 町企業連絡会総会
- 二三日 総務委員会
- 建設経済委員会
- 川薩介護保険組合全員協議会

- 一六日 広報委員研修会
- 二〇日 総務常任委員会
- 法定協議会委員研修
- 一部事務組合議会全員協議会
- 二二日～二三日 常任委員長研修会

- 二二日 合併協議会
- 二八日 川内川改修期成会による要望活動
- 山形県村山地方町村議会議長会来庁
- 二九日 鹿児島大口径線整備期成会現地調査
- 三〇日 横川町議会との交流会



役場西側に新しい駐車場が完成

編集後記



今年の梅雨は、いつ雨が降ったか分からない状態で明けましたが、例年になく水不足の中の田植え作業に大変な苦労があったことと察します。

水をもらえない野山の草木は「雑草の「とく」と言われているように、自然界での生命力に驚きと感動を感じさせられる今日です。

議会としましては、薩摩町としては最後の年にもなり、町制施行五〇周年の節目にもなることから、各種記念事業や十七年三月の合併に向けて、悔いの残らないように全力で取り組んでいきたいと考えています。

今後皆様のご指導と、御意見をどしどしお聞かせください。

広報編集委員

- 木下 賢治
- 木下 敬子
- 神園 和昭
- 米丸 文武
- 福山 道徳

お願い
議会だより六七号を探しています。お持ちの方、若しくはご存知の方は議会事務局までご連絡ください。